

「油井小・中学校の油井の豊年踊り伝承活動の取組」

1 学校名

瀬戸内町立油井小・中学校

2 学年・人数

小学1年生（1人）、小学2年生（1人）、小学6年生（1人）

中学1年生（1人）、中学2年生（2人）、中学3年生（2人） 計8人

3 日時・場所

(1) 練習の日時・場所

三味線練習 令和2年4月～令和3年3月 放課後（本校音楽室）

「油井の豊年踊り」の練習

令和2年10月14日、21日、28日に保存会による指導（本校体育館）

(2) 発表の日時・場所

令和2年11月1日（日）校内学習発表会（本校体育館）

※ 例年であれば豊年祭、瀬戸内町子ども島口伝統芸能大会でも発表するが、今年度は、新型コロナウイルス感染症拡大防止のために中止された。

4 伝承・活用に取り組んでいる郷土芸能

(1) 名称

油井の豊年踊り（ゆいのほうねんおどり）

(2) 由来

油井の豊年踊りの由来は明らかになっていないが、その年の豊作への感謝と来年の豊穰を祈願し、旧暦8月15日に行われる豊年祭で披露される。土俵を田や白に見立てて、稲刈りの作業過程や米つきの様子などが表現され、色鮮やかな衣装と手製の紙面をつけてコミカルに演じられるのも特徴である。1983年4月より鹿児島県指定無形民俗文化財となっている。

(3) 構成等

「綱切り」「振り出し」「土俵ばらい」「稲刈り」「稲すり」「米つき」「力めし（ジュウゴヤウバン）」「観音翁の土俵見舞い（ヒゲフッシュュ）」「玉露カナ」「ガットドン」「打ち上げ」「八月踊り」の12の演目で構成され、稲作の作業過程を芸能化した踊りや寸劇、八月踊りなどから成っている。力士を中心として集落民が東西に分かれて綱を引き合う「綱切り」に始まり、人々が土俵を囲み輪になって踊る八月踊りで豊年踊りはフィナーレをむかえる。

5 保存会や地域との連携の具体

毎週水曜日に保存会長である岡野弘明さんが学校にきてくださり、島唄・三味線の講習会を行ってくださっている。この練習により、島唄が私たちに伝えたいこと、そして三味線が奏でる音が私たちの魂の根底に根付いていることに

ついて、子供たちは知らず知らずのうちに体得し、後世につなげていくべき大切な文化であることを感じ取っている。

また、豊年踊りの指導については、岡野さんをはじめ、油井集落の先輩たちが率先して集まり、指導してくださっている。練習日時の決定については、岡野さんと教頭が連携を図り決定し、保護者にお知らせする形をとっている。少子高齢化となっている集落であることから、10年後がどのように継承されているか心配の声も聞かれるが、幼い時から豊年踊りに触れている彼らにとって、継承することの大切さを理解している。

6 文化財伝承・活用取組の工夫した点

中学生が小学生（1，2年生）に踊り方や歌い方を教えることにより、小学生が成長した際に、「今度は、私たちが教える番だ。」と意識できるようにしている。このようにすることで、中学生は、どのようにすれば幼い子供が理解でき、意欲をもって踊ったり、歌ったりすることができるかと自然に考えるようになった。また、小学生も見よう見真似ではあるが、素直に中学生から学び、少しでもお兄さんお姉さんに近づきたいと考え、行動することができるようになっている。このことを、保存会の方々も微笑ましく見守ってくださっている。

この小中学生の様子を、普段の学校生活にも見られるようになり、お互いが支え合い、互いに成長する姿へと変容しているように感じられる。

7 取組の様子（練習状況、発表の場等）

(1) 島唄・三味線練習の様子



(2) 学習発表会の様子



8 参加生徒・保存会長の感想

油井中2年

旧暦8月15日。私が住む地域にとって特別でとても大切な「油井の豊年踊り」が奉納される日だ。まわし姿の力士役が引き合う大綱を、紙のお面をつけたシシと先払いが断つ「綱切り」で始まる。油井の豊年踊りは、県の無形民俗文化財にも指定されている。私はこの大切な文化をこれから先もずっと残してほしい、残していきたいと思っている。だが1つ問題がある。それは過疎化，少子高齢化が進み，若い世代が減少していることだ。このままでは継承者不足になり，演目ができなくなってしまうかもしれない。シマの文化を継承するために今の自分にできることは，三味線で弾ける曲を増やすことである。そのために，地域の方々に教わりながら練習を積み重ねて，シマの宝を絶やすことなくつなげていきたい。私も継承者の一人として。

保存会長

年上の子が年下に一生懸命教える姿が見られたことがとてもうれしかった。伝承していくうえで，これが大事。衣装も着けて様になっていた。練習の成果がとても表れていた。